

平成 21 年度事業状況報告

府域の良好な自然環境の保全及び市街地の緑化を推進し、みどり豊かで快適な環境づくりに寄与するため、次の事業を行った。

・府域に残された良好な自然環境や里山等の保全

1 貴重な自然環境の保全

府域に残された貴重な自然環境の保全と復元を図るため、当協会の登録ボランティア「みどりすと」をはじめ、多くの府民、企業社員のボランティアの参加や大阪府立大学等の研究機関の協力を得て次の活動を行った。

- ・貴重な動植物を育む自然環境の保全に関する活動 和泉葛城山ブナ林ほか 5カ所
- ・貴重な社寺林（大阪府自然環境保全地域）の保全契約 妙見山ほか 4カ所

(1) 和泉葛城山ブナ林保全整備事業

国指定天然記念物である和泉葛城山のブナ林は、日本のブナ分布の南限圏にあり、標高も低いために環境変化の影響を受けやすく、大阪府が取得した周辺森林（バッファゾーン）との一体的な保全が必要である。

このため、学識経験者等で構成する和泉葛城山ブナ林保護増殖検討委員会の助言を得ながら、大阪府及び地元岸和田市、貝塚市と協力し、ブナ林が天然林としての生態系を維持できるようにバッファゾーンのブナ林の保全・整備に取り組んだ。

また、ボランティア団体「ブナ愛樹クラブ」や企業の社員ボランティアなど、広く府民の協力を得ながら保全・整備活動を実施した。

(保全面積 56 ha)

- ・ブナ苗木の養成（岸和田市塔原） 平成18年秋に採取した種子より
- ・環境測定器の設置（温度、湿度、土壌水分含有量、光量） 6基
- ・ブナ林のDNA調査
- ・ブナ林植生調査
- ・ブナ花芽調査、結実調査
- ・「ブナ愛樹クラブ」等による周辺森林の整備 14回 参加 164名
- ・企業ボランティアによる下刈り（10月17日(土)） 1回 参加 111名
- ・巡視管理等 巡視員 4名 延べ 68日

- ・ブナ林クリーンキャンペーン（11月8日(日)） 1回 参加 80名
- ・ブナ林自然観察ハイキング（11月21日(土)） 1回 参加 74名

（2）三草山ゼフィルスの森保全整備事業（大阪府緑地環境保全地域）

能勢町三草山は、日本に生息するミドリシジミ類の蝶（ゼフィルス）25種のうち10種が生息し、なかでも、ヒロオビミドリシジミは日本の分布の東限になっていることから、当協会が生息主要区域に地上権を設定し、ヒロオビミドリシジミの幼虫の餌であるナラガシワをはじめとする落葉広葉樹林の保全等のための事業を実施した。

また、萌芽更新による雑木林の再生・維持管理に加えて、休耕田を活用したナラガシワの苗木づくりを実施した。

（保全面積 14 ha）

- ・蝶類の調査（萌芽更新がチョウ類の多様性に与える効果の検証）
大阪府立大学等の研究と連携
- ・不法採取等の巡視 地元ボランティア「城好会」により実施
- ・ボランティアによる笹の刈り払い、除伐整理、落ち葉掻き、苗畑及び萌芽更新地の管理 6回 参加 93名
- ・ゼフィルス観察会の開催（6月21日(日)） 雨天中止
- ・第8回日本鱗翅学会自然保護セミナー「里山の変貌による日本のチョウ類の衰退と保護」（大阪市）にて発表（10月3日(土)～4日(日)）
（当協会後援）

（3）能勢町地黄湿地の保全（大阪府緑地環境保全地域）

トキソウ、サギソウ、モウセンゴケ等の湿地植物やハッチョウトンボやモリアオガエル等の貴重な野生動植物が生息する能勢町地黄の湧水湿地の維持管理のための保全作業を行った。また、継続して地下水位の変動を観測した。

ボランティアの協力を得て、陸地化を促進するススキなどの掘りとりや周辺森林の伐採などの作業を行った。特定外来生物に指定されているウシガエルは今年度も確認されなかった。時期を同じく、ハッチョウトンボも確認できなくなっている。

（保全面積 18 ha）

- ・地下水位の測定
- ・特定外来生物ウシガエルの巡視
- ・モリアオガエルの卵塊調査 約 90 個

- ・トキソウ開花株数 約 100 株
- ・ボランティアによる侵入した樹木やススキの掘り取りや湿地周辺森林の伐採整理等による湿地環境の維持と復元(サギソウの観察会含む)
5回 参加 39名

(4) 和泉市信太山惣ヶ池湿地の保全

市街地に隣接しているにもかかわらず、多様な生態系を保っている信太山惣ヶ池の湿地において、保全管理マニュアルに基づき、ボランティアの参加によるササ刈りや湿地植物の種多様性を高めるための耕起などの保全作業を実施した。

(保全面積 3 ha)

- ・乾燥化につながるネザサの刈り払い、帰化植物の除去、湿地植物の多様性を高める耕起作業、水路の整備等 4回 参加 60名
- ・絶滅したとされていたシソクサ調査 雨天中止
- ・カスミサンショウウオ産卵調査 詳細な調査を実施できず
- ・関西自然保護機構シンポジウム「信太山丘陵の保全と活用」の開催(和泉市)
(10月18日(日)) (当協会共催)

(5) 八尾水辺エコアップ活動

希少な淡水魚ニッポンバラタナゴ(純血種)の大阪府内での絶滅を回避するため、野池の環境を整備して、ニッポンバラタナゴの産卵宿主となるドブガイとあわせて増殖に取り組んだ。

ニッポンバラタナゴは順調に増殖しており、ドブガイの繁殖も確認できた。

(保全池面積 0.1 ha)

- ・ヘドロの除去、ドブガイの生育環境の改善のための土砂補給、水路の維持管理、ため池周囲の草刈り 13回 参加 70名
- ・ドビ流しによる池の浄化作業と生きもの調査(11月1日(日))
1回 参加 12名

(6) 大和葛城山カタクリ群生地の保全

府内で唯一のカタクリ群生地において、周辺からの藪の侵入を防止するためのササ刈りや立入防止柵の改修等の環境整備を実施した。ここは府内でも数少ないギフチョウの生息地でもあり、ギフチョウの産卵調査やその餌植物のミヤコアオイの調査などについても大阪府立大学と協力しながら実施した。

また、ボランティア団体「大和葛城山の自然を大切にする会」が主体となって、奈良県側（とくに橿原地区財産区）での保全作業なども積極的に行い、平成22年度には奈良県との希少動植物の保護としての協働事業を行うことが確定している。

（保全面積 3 ha）

- ・ボランティアによる侵入するササ類の除去、防火帯の草刈り、林内整理、ボランティアによる調査（カタクリの分布、ギフチョウ産卵調査）等
48回 参加 357名
- ・日本チョウ類保全協会と合同でのギフチョウ卵調査（2年目）
（6月5日(金)～6日(土)） 参加 のべ 22名
- ・カタクリ観察会の開催（4月22日(水)及び26日(日)） 2回 参加 39名
- ・大和葛城山野鳥観察会（7月15日(水)） 1回 参加 15名
- ・大和葛城山ヒメボタル調査（7月19日(日)） 1回 参加 18名
- ・大和葛城山親子昆虫教室（7月26日(日)～27日(月)） 参加 のべ 約80名

（7）大阪府自然環境保全地域（社寺の貴重な自然林）の保全事業

社寺に残るすぐれた自然林を地域の極相林として維持するため、5カ所の大阪府自然環境保全地域について、管理者との保全契約に基づいて支援した。

（保全面積 38 ha）

- ・妙見山自然環境保全地域（能勢町 10 ha）
- ・本山寺自然環境保全地域（高槻市 14 ha）
- ・若山神社自然環境保全地域（島本町 11 ha）
- ・美具久留御魂神社自然環境保全地域（富田林市 2 ha）
みぐくるとたま
- ・意賀美神社自然環境保全地域（岸和田市 1 ha）
おがみ

2 里山の保全活動

かつて里山は人々の暮らしを支える森として利用されてきたが、燃料革命などの生活様式の変化等により手入れされなくなった雑木林や人工林を再生するため、(社)国土緑化推進機構や企業からの助成や寄付を受けて、ボランティアの参加による間伐、下刈り、つる切り等の森林保育作業を8カ所で行った。

また、里山保全活動を地域に根づいた持続性のある活動とするため、各活動地でボランティアによる自主的な活動を進めた。また、企業によるCSR活動のフィールドとして受け入れた。

(1) 各活動地のテーマ及び実施状況

能勢町歌垣の森 (放置された栗林の再生とギフチョウの保護: 2 ha)

「能勢のギフチョウを守る会」 4回 参加 40名

箕面市外院の森 (都市近郊の放置林の整備・再生: 3 ha)

「外院の杜クラブ」 6回 参加 60名

茨木市車作の森 (多様な動植物を育む里山の再生: 40ha)

「車作里山倶楽部」 37回 参加 656名

島本町大沢の森、水無瀬水源の森等 (山村と都市の交流: 18 ha)

「島本森のクラブ」 39回 参加 372名

和泉の国の森づくり (地域と都市住民の協働による森づくり: 7 ha)

10回 参加 165名

貝塚市蕎原の森 (台風被害森林の復旧: 11ha)

10回 参加 219名

泉佐野市いずみの森 (ボランティアによる森づくり西日本拠点: 31ha)

「いずみの森ボランティアの会」、(社)国土緑化推進機構から助成

27回 参加 831名

泉南市堀河の森 (企業ボランティアによる森づくり: 11ha)

3回 参加 132名

(2) 企業によるCSR活動の受け入れ

- ・車作の森 3件
- ・和泉葛城山ブナ林 1件
- ・蕎原の森 2件
- ・いずみの森 7件

3 生物多様性保全事業

日本でのCOP10(生物多様性条約第10回締約国会議)開催(2010年10月)を契機に、生物との共生にも観点をおいた里山づくりを進め、ボランティアや地元学校等とともに身近な生物相の調査などを行った。

また新たに、遊休農地を活用し、地域と環境を蘇らせて、生き物との「つながり」を尊重した価値の高い恵みに満ちた生態系を再生し、地域の自然に根ざした「人と生き物にやさし

い農業」あるいは「生物多様性農業」を試みた。これは、人と森林そして生き物をつなぐものとして「農業」を大きな可能性をもった活動領域とし、今年度より新たに着手し始めた。

生きもの調査

(既存の活動地)

- ・歌垣の森ギフチョウの調査(成虫、卵) 4月18日、4月29日
- ・大和葛城山ギフチョウの調査(成虫、卵) 4月19日、6月5-6日
- ・地黄湿地モリアオガエルの調査(卵塊) 6月13日
- ・八尾ニッポンバラタナゴの調査 11月1日
- ・三草山オオムラサキの調査(越冬幼虫) 2月13日

(新規活動地)

- ・倉垣の森キマダラルリツバメの調査(成虫及び吸蜜植物) 6月20日

モデル地区の開拓

・蝶の舞うまちづくり

能勢町倉垣の森

地元の小学校とともに学校林的な位置づけで、キマダラルリツバメの保護と生き物調べなどをクラブ活動として実施した。

4月から毎月1回実施

・生物多様性農業への理解促進

能勢町神山遊休農地

水田生物の多様性(タガメの復活)の回復(9月より開始)
(「総合学習」での体験や「食育」への取り組み)

9回 参加 84名

私立中学校との連携で、各学期ごとに一学年約260名が参加

2学期(11月)3年生 約260名

3学期(3月)1年生 約260名

. ボランティアの育成

森林保全や里山の循環的利用などの基礎的な技術と知識を習得できる講座を開設し、ボランティアの人材確保及び育成を図った。緑化行事等においては、自然素材を使ったクラフトの指導者派遣等を行った。

また、次代を担うボランティアの育成のために、学校教育との連携を図るとともに、大阪府緑の少年団の育成にも努めた。その他、大学生や大学院生を対象とした企業が助成するインターン制度により学生を受け入れた。

1 ボランティアの養成

(1) 里山ボランティア養成講座の開催

美しい里山景観が残る能勢町において、地元ボランティアの協力のもと、伝統的な文化や暮らしにつながる里山と人々のかかわりについて学ぶ「里山ボランティア養成講座」を開催し、新たなボランティアの発掘とその育成を行った。そして、修了後の保全活動への参画を促進した。

平成21年5月開講（年8回のうち5回実施）

受講者 のべ 88 名

(2) ボランティア交流

里山保全活動に関連した他団体との交流会を開催し、ボランティア間での交流を通じて、知識の共有や技術の向上を図った。研修会、人工林伐採技術の講習、林業器械の講習、伐採した樹木が活用としての薪づくりなどを実施した。

計5回実施

参加者 のべ 99 名

2 ボランティアの派遣

良好な自然環境や里山の保全及び緑化の推進を図るため、各フィールドでの継続的なボランティア活動の実施、あるいは、緑化行事などでの木工クラフトの指導者として登録ボランティアを派遣した。

ボランティア活動に必要な用具や資材を整備すると共に、活動時の事故対策として、傷害賠償保険に加入した。

・みどりすと活動 198 件 2,824 人

・クラフト指導者の派遣（10市町村へ） 12 件 派遣数 58 人

3 青少年緑化活動推進事業

緑とふれあう体験活動を通じて、緑を守り育てる心豊かな人間性をもつ青少年を育成するために、大阪府緑の少年団連盟の交流集会や学校等の教育機関からの依頼を受けて、講義や自然の中での体験学習等を行った。

- ・大阪府緑の少年団連盟の実施事業

緑の少年団全国大会への参加 日程：平成21年7月29日(水)～7月31日(金)

場所：京都府

大阪府緑の少年団交流集会

日程：平成22年3月20日(土)

場所：島本町記念の森(島本町)

- ・学校等教育機関への協力

幼稚園(1件)、小学校(3件)、中学校(3件)

能勢町教育研究会(小中学校教員)(1件)

普及啓発事業

自然環境の保全と緑化の推進についての認識を深め、トラスト運動への積極的な参加を促進するため、当協会事業地を活用した自然観察会の開催や大阪府の「木になる夢銀行事業」の銀行窓口業務などを行った。

その他、当協会の活動を広めるために各種シンポジウムの開催協力や普及啓発資材の作成などを行った。

1 普及啓発のためのイベントの開催

自然観察会などの実施により自然に触れ、楽しみ、学ぶ体験を通じて自然環境の大切さを啓発した。また、当協会事業の理解及び森林保全活動への市民の参加と支援を求めた。（再掲含む）

・歌垣の森ギフチョウ観察会	平成21年	4月18日(土)	25名
・大和葛城山カタクリ観察会	平成21年	4月22日(水)	23名
	平成21年	4月26日(日)	16名
・歌垣の森ギフチョウ卵調査	平成21年	4月29日(水・祝)	25名
・地黄湿地トキソウ観察会	平成21年	6月13日(土)	10名
・大和葛城山野鳥観察会	平成21年	7月15日(水)	15名
・地黄湿地サギソウ観察会	平成21年	8月8日(日)	9名
・車作の森キツネノカミソリ観察会	平成21年	8月15日(土)	76名
・いずみの森自然体験	平成21年	10月31日(土)	200名
・八尾ドビ流しによる生きもの調査	平成21年	11月1日(日)	12名
・和泉葛城山ブナ林自然観察ハイキング	平成21年	11月21日(土)	74名

その他、緑の募金運動を通じて緑化啓発や自然環境・里山の保全等について啓発活動を行った。

2 シンポジウムの開催等

大阪府内で貴重な動植物を保護してきたこれまでの活動を広く周知していただくために、各団体と協力しながら活動成果を公表するシンポジウムの開催や講演を行った。（再掲含む）

- ・ 第 8 回 日本鱗翅学会自然保護セミナー
「里山の変貌による日本のチョウ類の衰退と保護」(当協会後援)
日程：平成21年10月3日(土)～4日(日)
場所：大阪市立自然史博物館講堂(大阪市)
参加：約 100 名
- ・ 関西自然保護機構シンポジウム
「信太山丘陵の保全と活用」(当協会共催)
日程：平成21年 10月18日(日)
場所：和泉市立鶴山台南小学校体育館(和泉市)
参加：約 100 名
- ・ 第2回 関西・中国地区のチョウ類の保全を考える集い
「大阪府のギフチョウの生息状況と保全」
日程：平成22年 2月28日(日)
場所：大阪市立自然史博物館集会室(大阪市)
参加：約 60 名

3 情報誌等の発行

当協会会員をはじめ行政機関、府民に協会の活動状況や自然に関する情報を提供するため、会報「みどりのトラスト」を年3回(8, 12, 4月)発行した。

里山保全活動のPRグッズとして、森林作業で使用する鋸や鎌の他に、地域の特産品などもモチーフにした「和手ぬぐい」を作成した。

ホームページを充実させることにより、効果的な情報提供やCSR活動支援に対する取り組みなどの充実を図った。

・ 会報(第63号～65号)	計 32,000 部
・ グッズ(和手ぬぐい)	500 枚

4 会員の募集

当協会の保全活動や緑化関係各種イベント、会報・パンフレットの配付等を通じて会員の拡大を図った。特に、CSR活動サポート用のパンフレットを活用し、企業や団体の法人会員の加入をよびかけた。

- ・新規会員登録者数 個人 51 人、法人 13 団体
（平成21年度会員数 個人 827 人、法人 51 団体）

5 専門委員会の開催

当協会の事業実施に当たり、専門的知識を要する事項について助言を得るために次の専門委員会を開催した。

- ・普及啓発委員会 3回
会報「みどりのトラスト」の編集及び緑の募金、その他、広報及び普及啓発活動について協議、検討

. 緑の募金運動

「緑の募金による森林整備等の推進に関する法律」に基づき「緑の募金」運動を積極的に展開し、市街地の緑化の推進、森林の整備、緑づくりの活動支援等に努めた。

「緑の募金」運動を進めるにあたり、幅広い参加による府民運動とするため、青少年団体、経済団体、企業、市民団体の協力を得て実施した。

1 募金活動

(1) 募金資材の整備

募金運動を実施するため、緑の羽根、募金箱、PR ポスターなどの資材を作成し、募金実施団体に配布した。

- ・緑の羽根 715,000 本
- ・募金バッジ 秋季(H21 用) : 「ブナ」ピンバッジ 5,000 個
春季(H22 用) : 「ヤマザクラ」ピンバッジ 20,000 個
- ・募金箱、タスキ、ポスター等

(2) 募金活動の推進

(ア) 集中取り組み期間

(春季) 平成 21 年 3 月 1 日から 5 月 31 日まで

(秋季) 平成 21 年 9 月 1 日から 10 月 31 日まで

(イ) 募金の実施

- ・街頭募金、学校募金、職場募金、家庭募金、企業募金等により行った。
- ・ボーイスカウト、ガールスカウト、緑の少年団などの青少年団体や地域婦人団体などによる街頭募金をはじめとし、企業や店舗の他、公共施設等に募金箱を設置して実施した。

(ウ) 募金運動の PR

- ・各報道機関に「緑の募金」運動の周知・協力を要請し、4 月には NHK ニュース番組においてアナウンサーに緑の羽根着用の協力を得た。

- ・大阪府広報、市町村広報での PR 協力企業の店舗などでポスター掲示を行うとともに、街頭募金キャンペーンを実施した。

<街頭募金運動キャンペーン>》

協力団体の参加を得てトラスト協会主催の街頭募金キャンペーンを実施した。

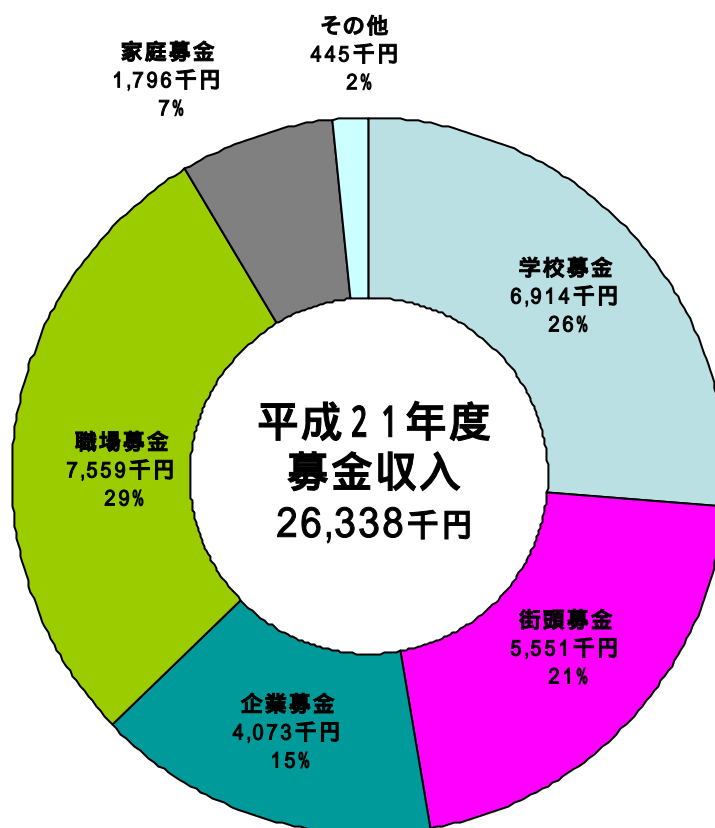
区分	実施日	場 所	協力団体
春季	4 / 25	近鉄「阿倍野橋」駅内	大阪市地域女性団体協議会

(エ) その他

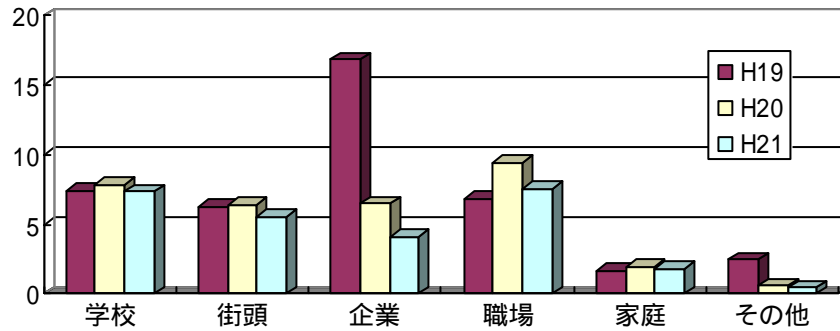
森林の市及び市町村緑化行事やその他団体緑化行事に出向き、募金を呼びかけた。

(3) 募金実績

平成 21 年度の募金総額は 26,338,187 円(1,274 件)で、平成 20 年度に比べ 6,389,006 円、71 件 減の実績となった。



【平成 21 年度種類別募金額】



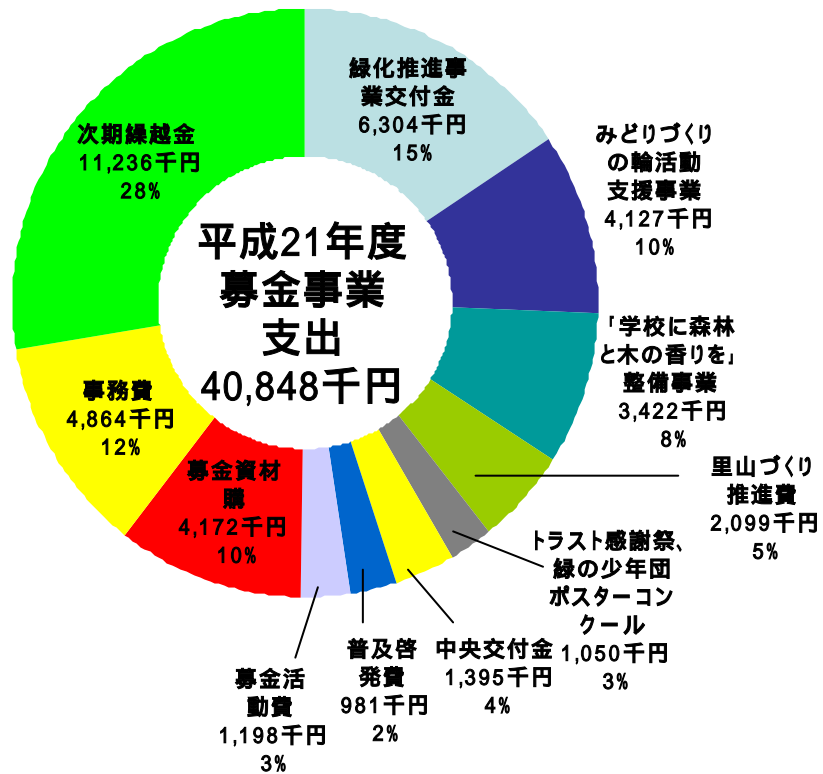
【過去3年間の種類別募金額の推移】(単位: 百万円)

2 緑の募金事業の実施

(1) 緑の募金事業支出

平成21年度は次のグラフのとおり事業を実施した。

平成20年度からの繰越金の一部をみどりづくりの輪活動支援事業及び里山づくり推進費に充当し、事業の拡充を図った。



【平成21年度緑の募金事業別支出額】

(2) みどりづくりの輪の拡大と森林の整備

(ア) みどりづくりの輪活動支援事業

市街地の緑化を推進するとともに、森林整備の促進を図るため、NPO やボランティア、市町村緑化団体等が行う緑化活動に助成をおこなった。

助 成 内 容	平成 21 年度 4,127 千円	平成 20 年度 6,323 千円
森林、里山の整備	6 箇所	5 箇所
学校ビオトープづくり	6 箇所	12 箇所
市街地緑化	2 箇所	6 箇所
合 計	14 箇所	23 箇所

(イ) 「学校に森林と木の香りを」整備事業

教育施設において、森林の整備、木材の利用、緑の効用について理解を深めるとともに、木の香る快適な学習環境を提供するため助成を行った。

【補助先及び整備内容】

- ・熊取町立 熊取南中学校 多目的教室の内装木質化（壁面等 300 m²）
- ・吹田市立 桃山台小学校 府内産間伐材ベンチ（10 基）、黒板（木陰の青空教室）
- ・箕面市立 第二中学校 保健室の内装木質化（31 m²）化学物質過敏症対策

(ウ) 里山づくりの推進

里山の多様な生き物の生息環境の確保や良好な里山景観をよみがえらせるため、人工林や雑木林の手入れ・植樹などを行い、森林の多様な役割を取り戻すためにボランティア参加による保全活動をおこなった。

- ・歌垣の森（能勢町） 島本の森（島本町） 車作の森（茨木市） 堀河の森（泉南市）
等

また、地球温暖化防止にかかる運動の一環として、堺第7 - 3区において、行政、府民、NPO、企業等多様な主体が協働して取り組む「共生の森」づくり活動に参画し、植樹を行った。

(エ) 緑の少年団の育成

「大阪府緑の少年団連盟」の活性化と各団の活動の充実を図るために、各団の活動に対して助成した。

- ・緑の少年団 10団体 620名(平成22年3月31日現在)
- ・大阪府緑の少年団交流集会の開催
と き：平成22年3月20日(土)
ところ：島本町尺代記念の森(島本町)

(3) 緑化の活動と普及啓発

(ア) 募金団体による地域緑化の推進

地域や学校等の緑化を推進するため、募金額の一部を緑化推進事業等交付金として募金団体に交付し、植樹、花壇の整備、緑地の手入れ等の緑化活動を行った。

- ・交付件数 750件
- ・交付金額 6,304,436円

(イ) トラスト感謝祭の開催

と き：平成22年3月28日(日)

と ころ：海遊館(海遊館ホール)

主 催：(財)大阪みどりのトラスト協会

行事内容：平成22年用国土緑化運動・育樹祭ポスター原画コンクール入選者の表彰
トラスト協会クラフトボランティアの表彰
受賞作品展示

(ウ) 国土緑化運動ポスターコンクールの実施

児童、生徒の自然や緑への関心を高めるために、府内小・中・高等学校の協力を得て、平成22年用国土緑化運動・育樹運動ポスター原画コンクールを行い、優秀作品を国土緑化推進機構が行う全国コンクールに応募した。

入賞者については、トラスト感謝祭で表彰するとともに作品を展示

- ・応募者数 213名(参加者総数1,012名)
うち入賞(トラスト協会賞)20点
(詳細については別添資料「会報65号」で紹介)
- ・全国コンクールへの推薦及び受賞(上記20点から14点を推薦)
林野庁長官賞 準特選 2名

(エ) 中央交付金

募金中央団体である(社)国土緑化推進機構が行う全国規模での緑化事業に要する経

費を交付した。

- ・中央交付金 1,395,000 円

(オ) 普及啓発活動の拡充

- ・懸垂幕をみどりの月間(4月15日~5月14日)と山に親しむ推進月間(11月)に大阪府庁舎で掲出した。
- ・その他、チラシの作成や大阪商工会、府友会など募金協力団体の機関誌に「緑の募金の呼びかけ」を行う記事を掲載した。

3 緑化推進運営協議会の開催

緑の募金運動を展開するため、次のとおり緑化推進運営協議会を開催し、事業計画、収支予算等を審議した。

- ・平成21年5月25日(水) 平成20年度 事業報告、収支決算
- ・平成22年2月25日(水) 平成22年度 事業計画、収支予算

基本財産及びトラスト基金の造成

基本財産は 226,147,961 円（平成22年3月末現在）となっており、希少な動植物の保護などの自主運営能力を高めるために増額に努力した。

また、和泉葛城山ブナ林とこれを取り巻く森林を一体的に保全するための「ブナの森トラスト基金」及び能勢町三草山に生息するミドリシジミ類の蝶類の保護のための「ゼフィルスの森トラスト基金」の造成に努めた。

ブナの森トラスト基金

・基金寄附件数及び寄附金額	97 件	1,165,064 円
(平成22年3月末現在 累計	3,577 件	80,841,376 円)

ゼフィルスの森トラスト基金

・基金寄附件数及び寄附金額	48 件	322,077 円
(平成22年3月末現在 累計	1,856 件	46,377,769 円)